

中播磨 Wa' Wa' Wa'

編集・発行
姫路市北条1-98 姫路総合庁舎
兵庫県中播磨消費者センター

しんぶんを通して、人のWa'・平和のWa'・話のWa'など限らないWa'に出会いたい…そんなWa'を伝えていきます。
(生活創造応援隊 一同)

はりまの古民家 No. 7



も く じ

特集

ぶら〜り町歩き ーはりまの古民家 in 姫路ー

P2

消費生活情報

P4

センターからのお知らせ

P4

版の会 高野 雅一

手柄山の東を流れる、船場川に架かる生矢橋のもとに、煉瓦造りの煙突を見つけました。「手柄山本みりん」さんの工場と本宅でした。どちらも歴史を感じる建物です。

郊外を散策すれば、まだまだ発見が楽しめそうですね。

ぶら〜り町歩き

中播磨の行ってみたいこんなところをご紹介

はりまの古民家 in 姫路

～歴史と出会えるまち船場を歩く～

今回は、古くから商人の町として栄え、今も歴史的なたたずまいを残す船場の町を探索してきました。案内は、NPO 法人歴史と出会えるまちづくり船場城西の会 理事長 柴田武志さんです。地元[愛]が溢れる方で、船場の魅力を余すことなく紹介していただき、私たちはお腹の虫がグウ〜と鳴るのもなんのその!! 船場の町にたくさんの足跡を残してきました。



始めに訪れたのは「船場御坊(せんばごぼう)」の名前で親しまれている「真宗大谷派姫路船場別院本徳寺」です。江戸初期の藩主本多忠政の時に創設された、播磨の同派の中心寺院です。敷地内には、明治天皇が西国行幸の際に宿所とされた「行在所(あんざいしょ)」や、勤王志士の墓などがあり、歴史溢れるお寺です。2006年に、本堂・表門・鐘楼・大玄関が姫路市の重要文化財に指定されました。立派な大伽藍もさることながら、様々な天災や戦災に耐え今日ある姿にどこまでも圧倒されるばかりでした。

続いては、「永浜時計店」です。ここでは「まぼろしの播陽(ばんよう)時計」を見ることができます。幻というのは明治初期に設立した播陽時計製作会社が数年で解散(明治23年)した為、現物資料が大変少ないからです。播陽時計は、振り子と長短針を使った機械式のいわゆるボンボン時計です。動力は、ゼンマイで、時計の仕組みを解説いただいている時にボンボンと時報が鳴りました。どこかセピア色の音に、祖父の家にボンボン時計があったのを思い出し、キリキリとゼンマイを巻いていた祖父の姿が頭をよぎり、懐かしさを覚えました。

「永浜時計店」は、播陽時計製作会社の設立時に携わった初代が開業。現在5代目の永濱恵悟さんが引き継ぎ、古い時計の修理なども引き受けておられます。

続いては「木綿製品店 棉屋(わたや)」です。大正10年に建てられた古民家を改築し、平成15年に開店しました。土間や天井の梁、白い漆喰の壁など、昔の暮らしを感じる趣きのある店内で、実物の綿花や糸紡ぎ機、天然の藍染の液などを間近で見ることができました。店主の澤田善弘さんから、江戸時代に姫路藩の名産品だった「姫路木綿」や、店内で体験できる「藍染」について説明いただきました。当時の播磨は、木綿の一大産地で「姫路木綿」は、薄地で柔らかく、特に色が白いのが特長で、「姫玉」「玉川晒」として、遠く離れた江戸でも



大好評でした。この木綿が2021年大河ドラマ「晴天を衝け」に登場しました。第19話の中で、主人公・渋沢栄一が持っているのが「姫路木綿」です。この白木綿布は「棉屋」の提供だそうです。また、番組の最後に流れる紀行番組では、実際に糸を紡いでいる澤田さんの様子が放送されました。澤田さんは、もっと木綿に気軽に触れ、知ってもらいたいと「御国産木綿会所(おんこくさんもめんかいしょ)」を店内に併設し、姫路木綿の復活・普及に努めておられます。

また、「藍染体験」では、店内にあるエコバッグやストールの他に、持ち込みの品(天然素材)も染めることが出来るそうです。

次は、「砂川漆工芸/砂川仏壇店」です。4代目の砂川隆さんにお話いただきました。元々

は、飾磨で塗師・仏壇商を営んでいましたが、明治40年に暖簾分けし、ここ船場に店を構えました。

日本では、古くから「漆」が塗料として使われてきました。ウルシ科ウルシ属の落葉樹「ウルシの木」に傷を付けて採れる樹液が「漆」です。1本の樹から、1年間で200g程採取でき、採れたての漆は乳白色をしています。そして、余分なゴミを取り除いたものを「生漆(きうるし)」と呼び下地等に使います。この漆をもとに水分を飛ばすなどの精製をすると「透き漆(すきうるし)」と呼ばれる、茶色で透けた漆が出来ます。これに朱色の粉を混ぜると獅子頭のような朱漆ができます。又、黒色は鉄分に反応させると黒漆になります。

店内には、まだ、白木の姿で、これから漆塗りを待つ祭り屋台の屋根部分がありました。木の継ぎ目を補強中で、その後、下地付けを重ね、合間に麻布を貼るなどし頑丈にするそうです。そして更に下地を重ね、最終的には20層にもなるそうです。その後砥石を使い研ぎ下すと塗り工程に進み、また研ぎ塗りを繰り返し、最後は手で磨き上げます。80以上の工程を経て、やっと鏡のような漆塗りになります。この黒い鏡面仕上げを「蠟色(ろういろ)仕上げ」といいます。「砂川漆工芸」の熟練の技が光ります。

続いて向かった先は、「原田光明堂」です。江戸時代から今も続く老舗仏壇店です。現在8代目の原田眞一郎さんにお話を伺いました。

仏壇の産地は全国で主に8~10か所、各城下町で栄えたそうです。その中で、「姫路仏壇」の特徴は、まずその「大きさ」にあります。播州地方が、本間間(ほんけんま)の家で畳が広く天井が高い家が多かったことから、背が高く奥行きが深い仏壇が出来たと言われています。次に「内障子」です。「無双金具」という特殊な蝶番を使い、障子が内外の両方に開閉します。そして、外観は、金箔押しや蒔絵があり豪華絢爛でとても重厚なイメージです。

私たちは、工房を見学し、「漆塗り」を拝見しました。2人の職人さんが、お寺の仏具の漆塗りを丁寧に手掛けておられました。別の部屋では、「銕金具(かざりかなぐ)」を造っているところを拝見しました。地金の銅板に唐草や花模様をタガネで彫っておられました。実物に触らせてもらいましたが、模様の細かさにとっても驚きました。このように、漆も金箔も銕金具も組立ても、全ての工程を「原田光明堂」で手作業で造っておられます。伝統を引き継ぎながら、時代のニーズに合わせて、小型仏壇も製作しているそうです。原田さんは、「手で造られた品には、なんとも言えない温かみがあるのです」と胸を張っておられました。



最後に向かったのは「橋屋」です。記録が残っているだけでも1600年代末期の元禄年間から続く、超老舗の「みそ・麴屋」です。「橋屋」がある吉田町は、池田輝政(初代姫路藩主)が吉田城(現在の愛知県・豊橋)から姫路入りしたとき、一緒に伴ってきた町と言われています。

御当主は何代目ですか、とお聞きしたところ、当主の名前は襲名相続で、ずっと〈橋屋善助〉だったそうです。ですから、何代目なのか数えられないとのことでした。驚きでした。

「橋屋」の味噌・麴は、今でも手作りです。美味しいと評判で、「橋屋」の味噌づくり教室は、毎回大好評です。

たくさん歩いた、今回の「船場・まち歩き」、知らなかった新しい発見と出会いがたくさんあり、船場川を渡る春風に長い歴史の重さを感じた一日でした。

【生活創造応援隊】 梅本知恵子、筈井公美子

消費生活情報 ～くらしに役立つ情報をお届けします～

点検中に屋根を壊された？ 点検商法に注意

【事例】近所で工事をしているという事業者が来訪し「お宅の屋根がめくれているのが見えた。屋根に登って点検する」と言うので依頼した。点検後、屋根が浮いている写真を見せられ、そのままにしておけないと思い、修理を契約した。その後、家族の勧めでハウスメーカーに確認してもらおうと「釘を引き抜いたような新しい傷がある」と言われた。



消費者へのアドバイス

- ◆突然訪問してきた事業者に安易に点検させないようにしましょう。
- ◆点検後に修理を勧められてもその場で契約しないようにしましょう。別の専門家に確認を依頼したり、複数の事業者から見積もりを取ったりするとよいでしょう。
- ◆家族や周囲の人は、不審な人物が来ていないか、見慣れない書面がないかなど、高齢者の様子に気を配りましょう。
- ◆工事終了後でも、クーリング・オフできる場合があります。困ったときは、すぐにお住まいの自治体の消費生活センター等にご相談ください。



消費者ホットライン ☎ **188 (いやや!)**  お近くの消費生活センター等につながります。

～「環境学習セミナー」講師派遣事業～

NPO法人はりま里山研究所では、地域団体等が中播磨管内（姫路市、神河町、市川町、福崎町）で主催する「環境学習セミナー」に講師を派遣します！（県委託事業）

- ◆実施期間◆ 令和5年2月28日（日）まで
- ◆募集件数◆ 4件（※1 団体あたり2万円までの講師謝金を補助します）
- ◆問合せ先◆ NPO法人はりま里山研究所 担当：熊谷

〒679-2132 姫路市香寺町須加院2-847

【TEL】080-6183-4189 【FAX】020-4664-1269

【E-mail】info@satoyama-lab.org 【HP】http://www.satoyama-lab.org

～今年度も私たち応援隊をよろしくお願ひします～

私たちは令和4年度「生活創造応援隊」です。

中播磨地域の話題や情報を提供していきます！よろしくお願ひします。

植原 邦子（姫路市）	梅本知恵子（姫路市）	大野律子（姫路市）	大原哲矢（姫路市）
小國 冷子（福崎町）	木村利恵子（姫路市）	高野雅一（姫路市）	田路和子（姫路市）
玉谷 康彦（姫路市）	筈井公美子（姫路市）	長谷川登代子（姫路市）	以上11名

兵庫県中播磨県民センター 県民交流室 県民課（消費者センター）

〒670-0947 姫路市北条1-98 兵庫県姫路総合庁舎2階

【電話】079-281-6023 【FAX】079-281-3015

【Eメール】nkharikem@pref.hyogo.lg.jp

【消費生活相談】消費者ホットライン188 *最寄りの消費生活相談窓口につながります。

【ホームページ】https://web.pref.hyogo.lg.jp/chk12/shohi/shohiseikatsu.html